さくら学園だより

庄内さくら学園中
学校だより
2021. 1.18
No. １５

いのちと安全を考える

がんばろう１・17～阪神淡路大震災 26 年

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、大阪府に「緊急事態宣言」が発令されました。期間は、１月１４日（木）から２月７日（日）までとなります。学校の活動については、感染拡大防止対策を徹底しながら継続していくこととなっています。授業等は通常通り行われますが、感染リスクの高い活動については実施せず、３密を回避するよう取り組んでいきます。学校生活を送るにあたっては、感染防止の基本である「マスクの着用」、「手洗い・消毒の励行」、「教室の換気」等を行い、一人ひとりが「いのちや健康を守る」取り組みをすすめていきたいと思います。

ご家庭におかれましても、登校前には健康チェック（検温）をしていただき、発熱等体調不良がある場合は、登校を控えるようにお願いします。（欠席にはならず、出席停止となります）ご理解、ご協力をお願いします。

さて、「いのちを守る」ということについては、新型コロナウイルスの感染だけではなく、地震や台風等の自然災害によって、「いのちや大切なもの」を失うことがあります。今から 26 年前の 1 月 17 日、阪神・淡路大震災が起こり、大きな被害をうけました。

26 年前の 1995 年 1 月 17 日の早朝 5 時 46 分に想像を超えるような大きな地震（ﾏｸﾞﾆﾁｭｰﾄﾞ 7.3）があり、神戸や淡路島を中心に大きな被害がもたらされました。6434 人もの多くの方の命や大切なもの、そしてたくさんの思い出を奪い去ってしまったのです。大阪でも大きな被害があり、その中で一番被害が大きかったのが豊中であり、中でもこの庄内地域でした。26 年前ですから、今の中学生は、その時のことは直接経験していません。しかし、保護者の方や地域の方々、あるいは自分の身近な人の中には大きな被害を受けた方も多数おられるのです。その時の教訓をしっかり語り継ぎ、当時をふり返るとともに、いのちや安全について考えていくことが大切だと思います。

神戸市中央区の東遊園地では、震災が発生した 1 月 17 日に、灯籠に明かりをともし、犠牲者を追悼するつどいが毎年開かれています。灯籠は「1.17」の形のほか、5 年前からは一般から公募した文字の形に並べられていて、ことしは「がんばろう」ということばが選ばれました。

実行委員会は、新型コロナウイルスの影響で多くの人が不安を抱えて過ごす今の状態を 26 年前と重ね、復興の合言葉となった「がんばろう」ということばで、こころを 1 つに苦難を乗り越えようというメッセージを、神戸から世界に発信したいとしています。

震災のあった年の中学生シンポジウム（1995年９月６日開催）で、「阪神・淡路大震災に対する取り組み」という特別報告で、六・七・十中生徒会が合同で発表した内容について、その一部ですが掲載しておきたいと思います。

当時の悲惨な状況やつらい中で頑張ってきた仲間のこと、その中で周りの人たちの温かい気持ちにふれることができたこと等、とても伝わってくるものがあります。

＜中学生シンポジウム（1995.9.6）での報告概要（一部）＞

【六中】六中も水道管が割れて水浸しになったり、渡り廊下にひびが入り、使えなくなりました。そんな六中も避難所になり、多いときは６００人ぐらいの避難者の方がおられました。その避難された方々も卒業式まで何十人もの人がいらっしゃったのですが、六中の卒業式は六中の体育館であげさせてあげるべきだという避難者の方々のご厚意があり、卒業式にあわせて避難者の方々が移動先に移動していただきました。その結果、今年の３月の卒業式はすばらしいものになり、とてもうれしい思いをしました。

【十中】十中にも仮設住宅に住んでいる人、引っ越したけれど頑張って通っている人、もう転校してしまった人と様々な仲間が周りにはたくさんいます。そんな中、仲間どうし何から話せばいいか考える人もいたと思います。が、被害は少なからず皆受けていて、いろいろな思いがあったと思います。地震のことで悩んでずっと暗くなっているよりも、仲間の輪の中でその人の悩みを乗り越えていくことが私たちの一番望むことです。

【六中】六中ではたくさんの仲間が被災にあい、避難所に避難しました。その中の数人は、体育館から登校するという状況になりました。体育館の生活はとてもつらいもので、体調をくずし、風邪をひいたり日頃かからない病気になる仲間もいました。また、その年の３年生の中で、家をなくされた方がおられ、毎日夜１０時まで職員室で勉強され、受験に挑戦された方もいらっしゃいました。

【十中】十中では義援金活動として、一週間あいさつ運動と共に義援金を集めました。執行部の中で義援金を集めるか、文房具を送るか何度も話し合いました。その結果、お金の方がいろいろと使い方があると思い、義援金を集めました。十中は、こんな話し合いが長く続いたために、他の学校よりも遅れて送ることになってしまいました。その義援金をどこに送るかというのも話し合いが繰り返され、神戸や被害が大きいところに皆義援金を送っていると思い、十中からは豊中へ送ることにしました。

【六中】六中生徒会執行部は、多くの仲間が避難したことを知り、学校生活を共にする仲間のために何かできないかと考えました。多くの被災にあった仲間がいる中、義援金を集めるには少し抵抗がありましたが、自分のお小遣いの中から無理のないようにということで、３日間、正門と西門で活動しました。みんな被災しているにも関わらず、たくさんの六中生の気持ちが集まり、必要以上に重みを感じました。

また近くの学校からかなり遠くの学校まで、たくさんの方々が六中を応援してくれました。あの忌まわしい震災があり、元気をなくしていた六中でしたが、皆さんのあたたかい励ましで、校内も元気を取り戻すことができました。豊中の１８校での仲間づくりの活動を実感しました。元気と勇気を与えてくださった皆さんに感謝します。